

指導展開 HUGを用いた地域・関係機関と連携した防災教育	中学校
	第2学年
	総合

1 実施のポイント

学校と地域、関係機関とのつながりを意識し、保護者や危機管理局の協力を得て、体験的な学習を行う。様々な見方を通して、生徒の防災に対する意識を高めるとともに、避難所における自分達の役割に気づき、自己肯定感につなげることをねらいとした。

2 教科・学年 総合的な学習の時間 第2学年

3 単元名・題材名 「避難所運営と中学生の役割について」

4 授業の位置付け

保健体育科で扱う「自然災害から身を守るために」（危機管理局作成）の授業を踏まえた、総合的な学習の時間(防災教育)の授業である。

北海道胆振東部地震から、本校の地域でも避難所運営に関する関心が高まってきており、今回は札幌市危機管理局、東区役所、本校PTAの方々の協力を受け、地域・学校・関係機関のつながりを意識した授業となっている。

災害時に本校が避難所として開設された場合、中学生は被災者であると同時に、若く力のある人材としての活躍が期待される。今回の授業を通して避難所運営の在り方を知ること、避難に際して家庭で備えておくべきことは何か、自分が地域のためにできることは何かについて考えるきっかけにするとともに、生徒の一人一人の自己有用感につなげたいと考える。

今回は、冬季の避難所開設を想定し、1時間目は体育館で避難所の実際を模擬体験し、2・3時間目はHUGを用いて避難所運営をシミュレーション体験する。これらの活動を通して、自助・共助・公助それぞれの必要性について考えることをねらいとする。

5 本単元の目標

- ・災害に対する備えに関心をもつとともに、実際の避難生活をイメージしながら、自分たちにできることは何かを考えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・本校体育館で、冬季の避難所生活を模擬体験することを通して、自助・共助・公助それぞれの観点から、災害に備え必要なものは何かを理解している。

【知識・技能】

- ・HUGの体験を通して、カードに書かれている避難所に避難してくる人の状況を的確にとらえ、仲間と交流しながら適切に図上の体育館にカードを配置することができる。

【思考・判断・表現】

6 前時および本時の展開

【1時間目】

	生徒の学習活動	教師のかかわり			
事象への働きかけ・課題設定	<p>1. 保健の授業で学習した自助・共助・公助について振り返る。</p> <p>※講師となる危機管理局の職員の紹介</p> <p>2. 本校が災害時の避難場所であることを確認し、その際想定されている人数について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回、体育館に用意されているものは札幌市の備蓄であり、「公助」に当たることを確認する。 すべての被災者が避難してくるわけではないが、数百人に対応しなければならない場合もあることを伝える。 			
課題解決に向けた追究	<p>3. 3つのコーナーに分かれて、体験する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">A. 段ボールベット組立て体験</td> <td style="width: 33%;">B. 物資搬入・非常食体験</td> <td style="width: 33%;">C. 寝袋・毛布比較体験</td> </tr> </table> <p>A. 段ボールベットの組み立てを行い、実際に横になってみる。</p> <p>B. 備蓄庫に行き、保管されているものを実際に体育館まで運搬する。備蓄されている非常食を実際に準備し、喫食する。</p> <p>C. 毛布を使用した場合と、寝袋を使用した場合の温度差を体感する。</p>	A. 段ボールベット組立て体験	B. 物資搬入・非常食体験	C. 寝袋・毛布比較体験	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのコーナーの体験は10分程度のローテーションとする。 それぞれのコーナーに、教師または危機管理局の職員が付き、説明と指示を行う。 ※段ボールベット、毛布、寝袋については、危機管理局からの貸し出し。 ※非常食体験のアルファ化米については、危機管理局からの提供。
A. 段ボールベット組立て体験	B. 物資搬入・非常食体験	C. 寝袋・毛布比較体験			
課題の解決	<p>4. P T Aの方からの話を聞く。</p> <p>5. 今回の体験をふまえ、冬季における避難生活を考えたとき、どんなものを家庭であらかじめ備えておけばよいか、意見を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭における備え（自助）の大切さと、自分たち（中学生）の視点が重要な意見であることなどについてお話していただく。 			
	<p>【課題①】 冬季の避難所生活に備え、自分たちで準備しておくとういものはなんだろうか。</p> <p>【課題解決の姿①】 公助として学校にある備蓄だけでは十分ではないことを理解し、自助としてどのようなものが必要となるか、自分なりの考えをもつ。</p>				

セルフチェック1（興味・関心・疑問をもてる）
危機管理局の方による、専門的な立場からの指導。

セルフチェック4（多面的・多角的に考察できる）
3つの体験を通して、避難所生活の様々な場面を想起。

【2・3時間目】

	生徒の学習活動	教師のかかわり
課題の設定	<p>1. 1校時目の体験を踏まえ、冬季の避難生活で課題となる点を振り返る。</p> <p>2. 新たな課題の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題①を振り返り、学校の備蓄（公助）だけでは対応しきれないため、【自助】が欠かせないことを確認する。

定	【共助】について考える。	
	【課題②】 避難所の生活で、中学生の自分たちにできることは何だろうか。	
課題追究	3. 避難所運営ゲーム（HUG）のルールについて説明を聞く。	・危機管理局の職員から説明していただく。
	4. HUGの実施 保護者や危機管理局の職員とともに、ゲームを行う。	・進行役として入る保護者の方を紹介する。
課題解決	5. まとめと発表 HUGを振り返り、今回の活動の感想と、課題②について、班長を中心にグループ内で交流し、意見をまとめて発表する。	・避難所生活の様々な場면을想像しながら考えることができるように助言する。
	6. 危機管理局の職員から講評を聞く。	・生徒の発表を受けて、今回のHUGにおけるポイントをお話していただく。
	7. まとめ	
	【課題解決の姿】 災害時には、学校内にある備蓄や支援（公助）に頼るだけでなく、いざという時の備え（自助）やお互いに助け、支え合う（共助）が大切である。	・中学生は【共助】にとって重要な役割を担うことに気付かせる。

セルフチェック2（意欲を持続させる課題設定）
ゲーム感覚で意欲的に取り組みつつ、課題を自分事としてとらえる。

セルフチェック5（多面的・多角的に考察できる）
様々な避難者や状況があるイメージをしながら自分の考えを深める。

セルフチェック6（学びの良さを実感）
自分の役割を自覚し、地域から必要とされているという自己有用感をもつ。

7 資料

札幌市厳冬期HUG（新型コロナウイルス感染症VER）

避難所にやってくる様々な避難者の状況や、突発的に起こるイベントが記されている。このカードをルールに従い校舎内に適切に配置していくゲーム。

